

南朝の後村上天皇の御座所(皇宮)で、長慶天皇も即位した住吉行宮や、北朝最後の天皇・後小松天皇の落胤と噂される一休宗純禅師の牀菜庵跡などをめぐります。住吉のまちに眠る、王朝絵巻の夢のあと。



黄檗宗萬福寺の末寺。本尊は毘沙門天で、弘法大師作といわれています。住吉古墳群のひとつ弁天塚古墳の上に建てられています。

創建は10世紀と伝えられ、本尊は不動明王です。白河天皇の勅により永保4年(1084)に津守国葦(住吉大社神主)が再建したさいに、「七宝荘嚴極楽浄土」の銘がある金札が土中から発見され、それを寺号としました。南朝の後村上天皇は、父・後醍醐天皇追善のために当寺にて法要を行い、五色仏舎利と和歌を奉納しています。四天王寺とならぶ壮麗な寺院でありましたが、戦火などにあって荒廃しました。現在のお堂は天和2年(1682)の再建です。

防火・防水の大壁造りの漆喰壁に虫喰窓がある
正統派の日本家屋です。付近は住吉街道と熊野
街道が交差する古い町並みが点在する地区で、
住乃江味噌の池田屋、馬繋ぎのある「すみよし
村ぎやらりー」など、見所が満載です。

普通、地藏尊には水をかけてお祈りしますが、ここでは油をかけて無病息災を祈願します。文久2年(1862)に疫病が流行したときに、地藏に回復祈願していた老婆が、「油をかければよい」との夢のお告げをうけ、その通りにすると病が回復したのが由来とされています。

真言宗のお寺で、創建時は熊野街道沿いに建っていました。本尊の毘沙門天王は、南朝の名将・楠木正成が、千早城で戦勝祈願した念持仏といわれています。秘仏のため、正月3日間に限って御開帳が行われています。他に室町期の作といわれる四天王像や、境内の親子地蔵は有名です。

天正元年（1573）、武田信玄の一族という王念が開基し
 知恩院の末寺です。寺の本尊の阿弥陀如来は恵心僧都
 られています。ちぎり地蔵は、土地の人は「ちぎりさん」
 こめて呼びますが、別名を十徳地蔵といい、女人安産、水
 病消除などの十の願いをかなえてくれるそうです。

一休宗純(1394～1481)が、晩年に仮棲したところです。一休は北朝最後の天皇・後小松天皇の落胤と伝えられ、天衣無縫・反骨で終始し、京都・奈良・堺などに移り住みました。文明元年(1469)に住吉に移り住み、堺の豪商・尾和宋臨が建立した庵に弟子ともども入り、雲門庵と称しました。更に数年後、この空き地の一角に庵をつくり牀菜庵と号しました。森女と呼ぶ恋人がいたとも書われています。

南朝の後村上天皇は正平6年(1351)、北朝を奉じ
る足利義詮が降伏を申し出たので、翌年奈良県賀
名生から住吉大社宮司津守国夏邸内の正印殿に移り、
ここを行宮(行幸時の仮の宮居)としました。天皇は
その後、たびたび行幸しましたが、ついに京都奪還
はならずこの地で亡くなりました。次の長慶天皇が
即位したのもこの地です。また慶長19年(1614)
の大坂冬の陣では徳川家康の本陣にもなっていま
す。

住吉大社歴代の宮司であった津守氏の氏寺で、延喜元年(901)に創建されて、瑠璃寺とも称していました。神宮寺・荘厳淨土寺とともに、今住吉大寺の一つに数えられていましたが、明治初年廃寺となり、今は墨江小学校に碑が残るのみです。熊野野庭の津守王子が祀られていたものか付近と伝えられています。また、発掘調査の結果では、白鳳時代(7世紀後半)の瓦や土器が発見され、津守寺以前にも古代の寺の存在があったと推定されています。

慈恩寺は津守家の菩提寺で明治維新後廃寺となりました。この寺に有名な桜があり、延元2年(1337)に後醍醐天皇が吉住吉幸の折、この桜があまりに立派であったので車駕を再び返して、桜を賞でられたので車返しの名があります。現在はいした桜が植えられています。向かいの卯の花園は吉住大社創建に深いし縁のある花の苑で、5月の卯之葉神事の折に公開されます。

地元で「子安さん」と親しまれている地蔵尊は平安時代の作品で、大阪市の有形文化財にも指定されています。伝教大師の作といいう説もあって、子授け、安産、子育ての霊験があるとされています。寺の門前に百度石、門内に五大菩薩像がありますが、これらはかつて吉吉大社の境内にあった神宮寺にあったものです。

【お問い合わせ】大阪コミュニティツーリズム推進連絡協議会（大阪あそぶ事務局）電話06-6282-5930（財団法人大阪観光コンベンション協会内）「大阪あそぶ」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。 <http://www.osaka-asobo.jp> または **大阪あそぶ** でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2~3km、2~3時間程度を基準として作成されています。